

31年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成31年 1月1日～ 31年1月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
入荷動向	スギ	11.1	11.1	16.7
	ヒノキ	14.3	0.0	7.1
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	16.7	0.0	0.0
	ヒノキ	8.3	7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0
在庫動向	スギ	11.1	0.0	5.6
	ヒノキ	14.3	7.1	0.0
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の入荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは1月の増加から2月は横ばい、3月は再び増加に。カラマツは1月の増加から2月、3月は横ばいに。トドマツは1月の減少から1月、2月は横ばいに。
・スギの消費動向は1月の増加から2月、3月は横ばいに。ヒノキは1月、2月の増加から3月は横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは1月、2月の減少から3月は横ばいに。
・スギの在庫動向は1月の増加から2月は横ばい、3月は再び増加に。ヒノキは1月、2月の増加から3月は横ばいに。カラマツは1月の増加から2月、3月は横ばいに。トドマツは1月の減少から1月、2月は横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
スギ	△ 5.6	△ 5.6	△ 5.6
ヒノキ	△ 7.1	△ 8.3	△ 8.3
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	50.0

・スギ、ヒノキ製材用原木の価格動向は弱含み。
・カラマツ横ばい。
・トドマツは強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・12月から降雪が少なく凍結が進んだことで出材は順調。但し、在庫総数量は増加していないので在庫増は一時的。消費は横ばいだが、一部の工場では原木および人員不足により、オーダーの対応が十分できない様子（北海道）。
・原木入荷が増加せず。山土場にはある程度あるがトラック不足？ 年末年始の関係もあり運材集中。消費は12月4,500m³、1月4,500m³、2月4,500m³。春先を考えると原木不足は深刻（北海道）。
・スギ材は天候順調で出材増のため入荷増を期待。冬期凍結等により消費は横ばいで推移するだろう（関東）。
・入荷は少しずつ増加してきている。製材量はほぼ変わらない。スギ、ヒノキとも在庫はやや増加している（中部）。
・雪が全く降らないためヒノキは順調に入荷。スギは必要とする柱用丸太は相変わらず少ない（中国）。
・1月は暖冬見込みで入荷横ばいか。2月は天候次第。消費は2月に入り機械動作を低速にする必要あり（中国）。
・年末年始の天候も良好で出材は多い。稼働日数は少ないにかかわらず1時間の残業で消費は横ばい。ヒノキの入荷と消費のバランスが取れており、在庫も横ばい（九州）。
・冬場にしては天気良好で出材が良い（九州）。

(原木価格)

- ・数量が多いものは国有林の公売で価格高騰すると予想（北海道）。
- ・スギは出荷増で価格下落を予想（関東）。
- ・ヒノキは少し下がっているようなイメージ。スギは横ばいで変わらない（中部）。
- ・11月中旬以降、高騰していたヒノキ柱用丸太（14～20cm、3m）の相場が当たり前（採算ライン）の水準まで下がってきた（中国）。
- ・原木出荷量によるが暖冬なら価格下落か（中国）。
- ・径級にもよるが、4m材の一部はダブツキ気味。しかしB材、C材の引合いは相変わらず強く、外的要因も多いため動向予測は難しい（九州）
- ・合板業者の参入でヒノキ丸太の価格は上昇している（九州）。

31年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
生産動向	スギ	11.1	5.6	0.0
	ヒノキ	7.1	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0
出荷動向	スギ	11.1	5.6	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0
在庫動向	スギ	6.3	12.5	12.5
	ヒノキ	7.1	7.1	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0

・スギ製材品の生産動向は1月、2月の増加から3月は横ばいに。ヒノキは1月の増加から2月、3月は横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは1月、2月の減少から3月は横ばいに。

・スギ製材品の出荷動向は1月、2月の増加から3月は横ばいに。ヒノキは1月の横ばいから2月は減少、3月は再び横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは1月、2月の減少から3月は横ばいに。

・スギ、ヒノキ製材品の在庫動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは1月、2月の減少から3月は横ばいに。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	6.3	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	7.1	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	7.1	7.1	7.1
	タルキ	0.0	6.3	0.0
	間柱	0.0	6.3	0.0
	ヌキ	0.0	7.1	0.0
	平割	0.0	7.1	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0
柱角 KD12×3		0.0	0.0	0.0
土台角 10.5×4		0.0	0.0	14.3
土台角 12×4		0.0	0.0	0.0
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	50.0	
〃 ラミナ	0.0	50.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	100.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は総じて保合だが、母屋角は不足気味でやや強含み。

・ヒノキは全ての品目で横ばい推移。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも横ばい。

・トドマツサンギは強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・原木に合わせて生産、即出荷。
- ・人で不足が要因で生産、出荷とも横ばい。ヒノキ材は全体として出材が不足気味（関東）。
- ・製材キャパシティは変わらない。KDラミナ仕入量増やし、F/Jは増産の予定。在庫を積むまでに受注残を解消しなければならない（中部）。
- ・ヒノキの入荷が順調B材なため生産も同様に順調だ。出荷は都市部（関東、京阪神）の荷動きが停滞気味（中国）。
- ・丸太凍結が無ければ生産は横ばいか。1月は受注残あり。2～5月は出荷量減少か。出荷量落ち込むと生産量増えず在庫は横ばい（中国）。
- ・九州エリアは、スギKD材を順調に出荷している（九州）。
- ・ヒノキ製材品通常通り生産している。出荷は順調（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギ3月から値上げへ、客先には案内済み（北海道）。
- ・スギ母屋角は不足気味で価格上昇になる。ヒノキ柱角、土台角は全体的には横ばい価格となるだろう。ヒノキラミナも価格上昇まではいかない（関東）。
- ・スギ柱角KD上げたいが、値上げに踏み切れない（中部）。
- ・スギ、ヒノキとも相場は変化なし（中国）。
- ・スギ、ヒノキとも出荷量減少気味だが価格に大きな変化はないと思う（中国）。
- ・運賃が上がったので、その分製品の値上げ依頼予定（九州）。

31年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	△ 100.0	100.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	50.0	100.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は1月の増加から2月は減少、3月は再び増加に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

・米マツ丸太の消費動向は1月の減少から2月、3月は増加に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

・米マツ丸太の在庫動向は1月の減少から2月、3月は横ばいに。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太製材用原木の購入価格動向は弱含み。

・NZラジアータ丸太は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・ラジアータ丸太は入荷、消費、在庫とも変わらず、横ばい。

(原木価格動向)

・NZマツ丸太は多少値上り。

31年1月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
生産動向			
米マツ製材品	△ 50.0	50.0	100.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	△ 100.0	0.0	100.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	100.0	100.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は1月は減少、2月、3月は増加に。NZラジアータ製材品は3カ月連続横ばい推移。

・米マツ製材品の出荷動向は1月の減少から2月は横ばい、3月は増加に。NZラジアータ製材品は3カ月連続横ばい推移。

・米マツ製材品の在庫動向は1月、2月は増加から3月は横ばいに。NZラジアータ製材品は3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
米マツ平角	△ 50.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)	0.0	50.0	50.0
NZ土木用材	0.0	50.0	50.0
その他	—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格動向は平角は弱含み。正角、小割は横ばい。

・NZ梱包材(割角、割板)は土木用材とも強含み。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・ラジアータマツ製材品は生産、出荷、在庫とも変わらず、横ばい。

(製材品出荷価格動向)

- ・2～3月の製材品販売価格は値上げ中。